

都市問題等調査特別委員会

委員会資料

福岡空港の機能強化等について

令和7年1月22日

港湾空港局

目 次

福岡空港の機能強化等について

福岡空港の滑走路増設について P 1

(資料)

福岡空港の利用状況等 P 3

別冊

【参考資料】

2024 年度第 2 四半期決算説明会資料（福岡国際空港株式会社）

【福岡空港全景(北から南方向を望む)】



福岡空港の滑走路増設について

① 滑走路増設事業概要

- ・事業目的：ピーク時の航空機混雑の解消や将来の航空需要に適切に対応するため、滑走路増設事業を実施
- ・滑走路処理能力：18.8万回／年（滑走路増設後）

【事業着手前】 16.4万回／年（35回／時）

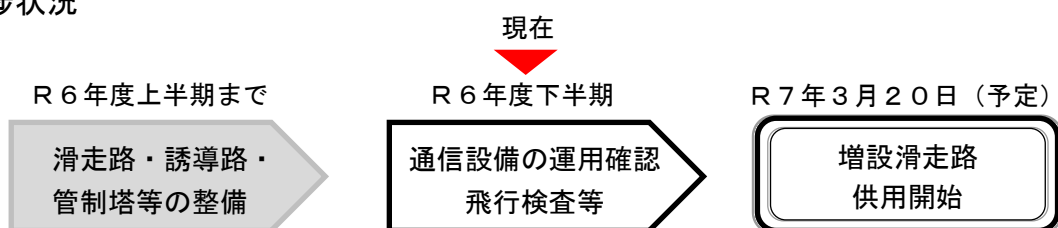
【誘導路二重化後】 17.6万回／年（38回／時）

【滑走路増設後】 18.8万回／年（40回／時）

※滑走路増設に伴う周辺地域への航空機騒音の影響を把握するため、騒音監視体制の充実を図っている。

- ・計画総事業費：約1,643億円（市負担額：約180億円）
- ・事業期間：平成27年度～令和7年3月（予定）
- ・供用開始日：令和7年3月20日（予定）

② 進捗状況



【飛行検査の様子】

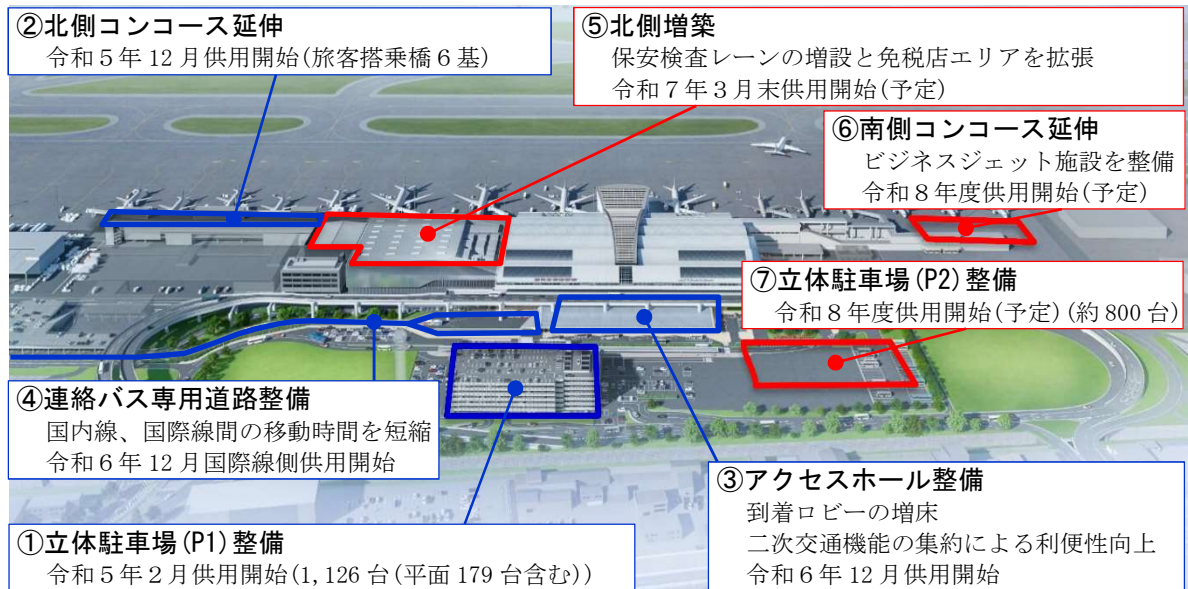


【新庁舎・管制塔】

参考 1 国際線地区の整備

- (1) 実施概要 ・ 空港ターミナル施設容量の拡大
・ 利便性の向上と魅力ある施設づくり
- (2) 実施期間 令和 4 年 5 月～令和 8 年度（予定）
- (3) 実施主体 福岡国際空港株式会社

■イメージ図



(福岡国際空港株式会社資料より作成)

参考 2 国内線地区の整備

- (1) 実施概要 ・ 空港利用者の増加を見据えた駐車容量の拡大
・ 利便性の向上と魅力ある施設づくり
- (2) 実施期間 令和 5 年 2 月～令和 8 年度（予定）
- (3) 実施主体 福岡国際空港株式会社

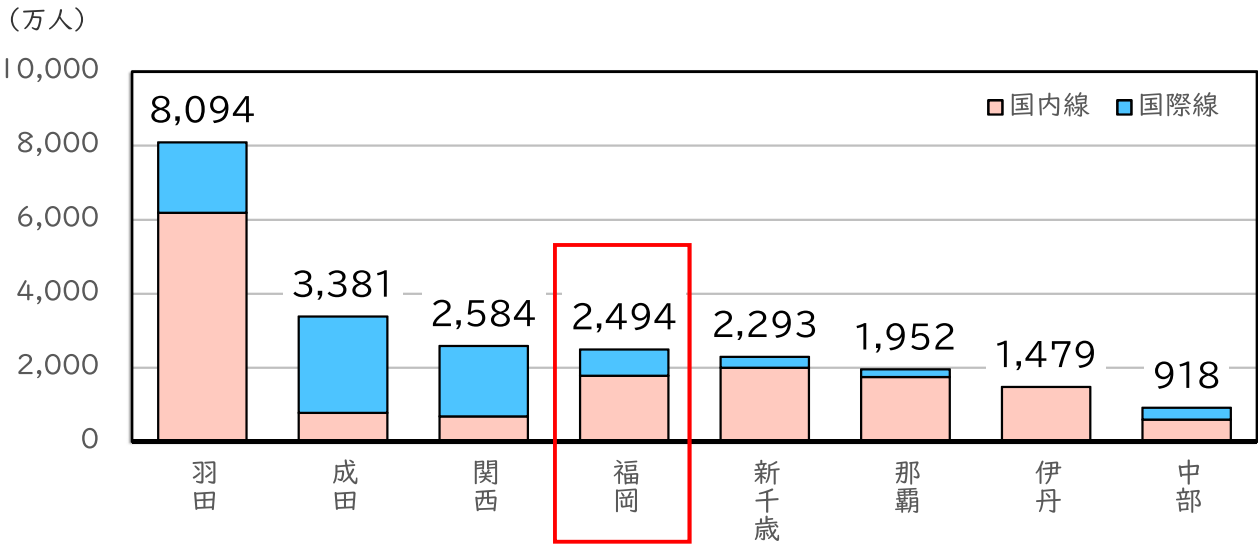
■イメージ図



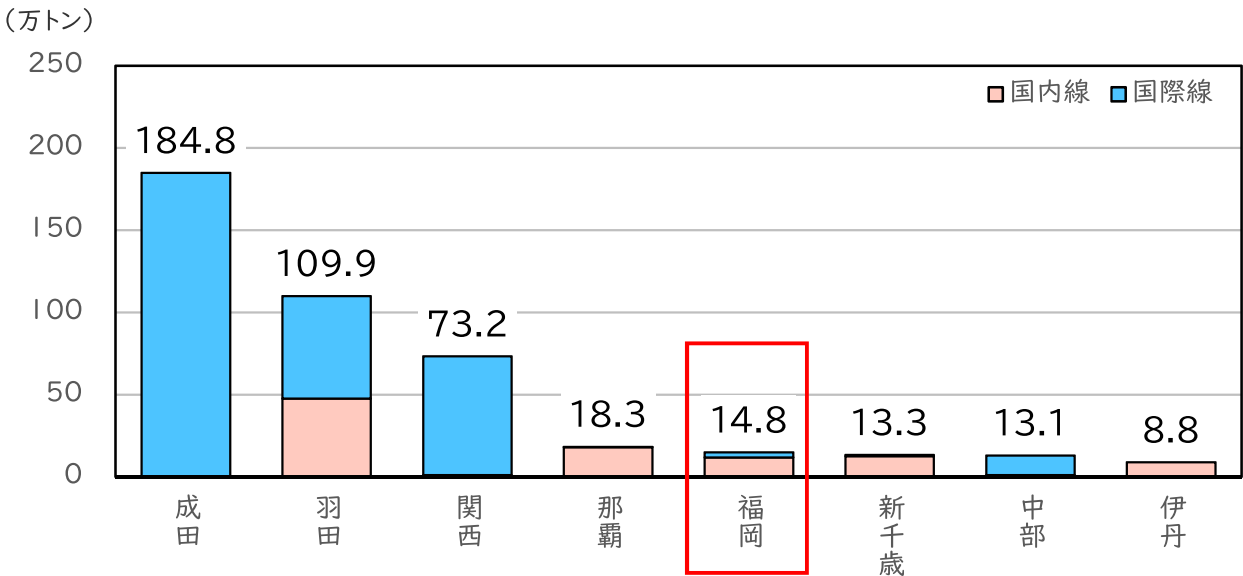
(福岡国際空港株式会社資料より作成)

1 福岡空港の利用状況について

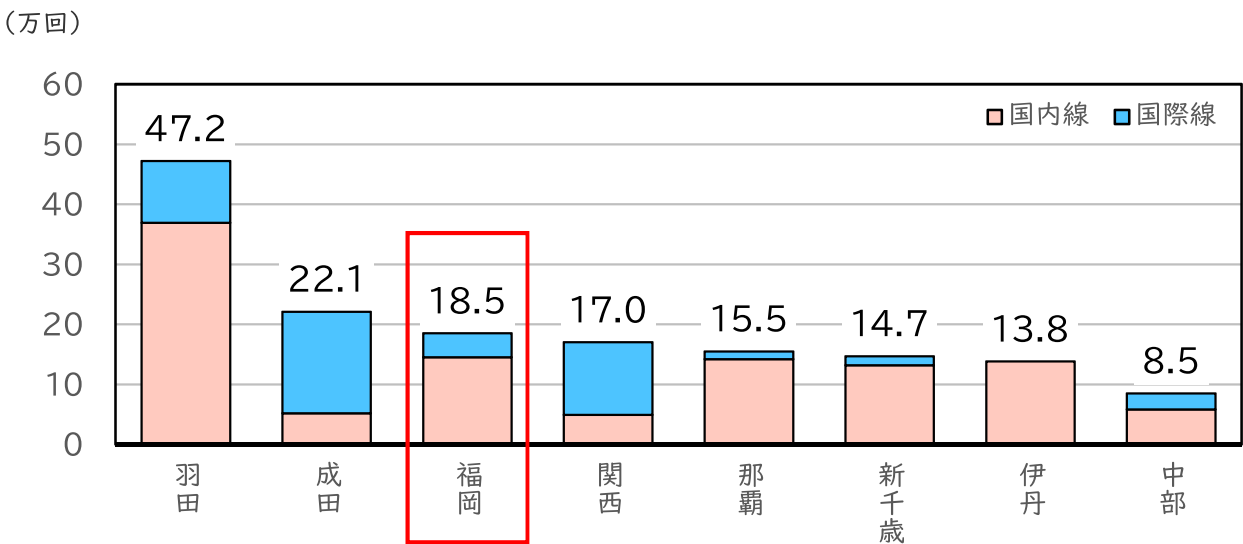
(1) 乗降客数 (令和5年度) 全国第4位



(2) 貨物取扱量 (令和5年度) 全国第5位



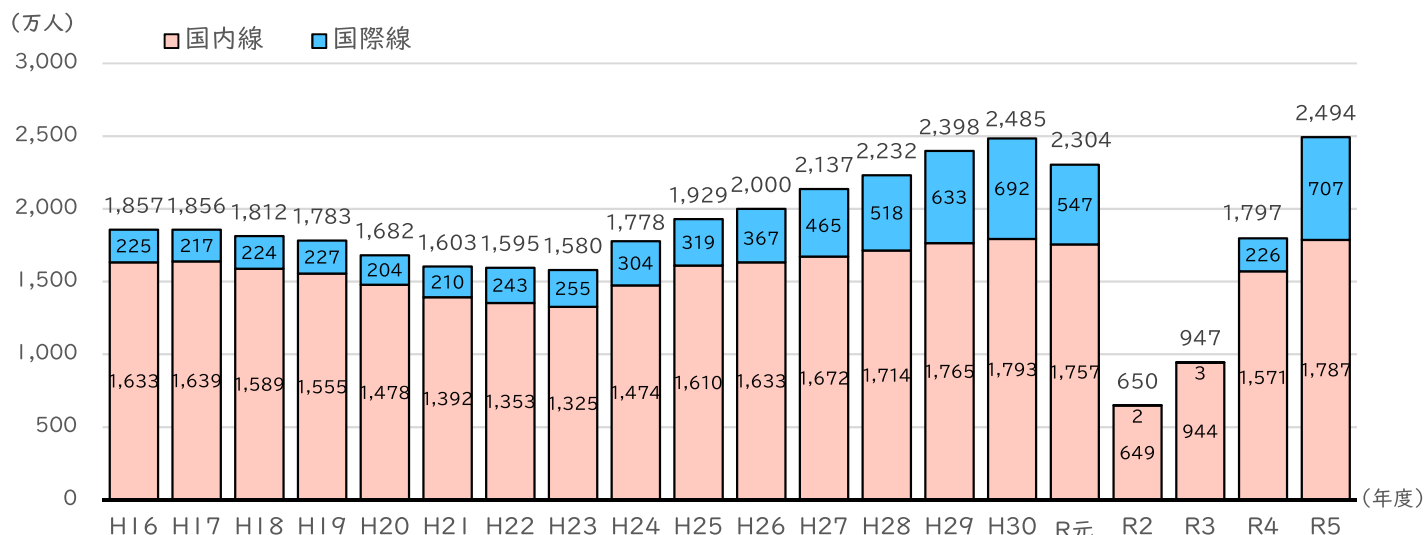
(3) 発着回数 (令和5年度) 全国第3位



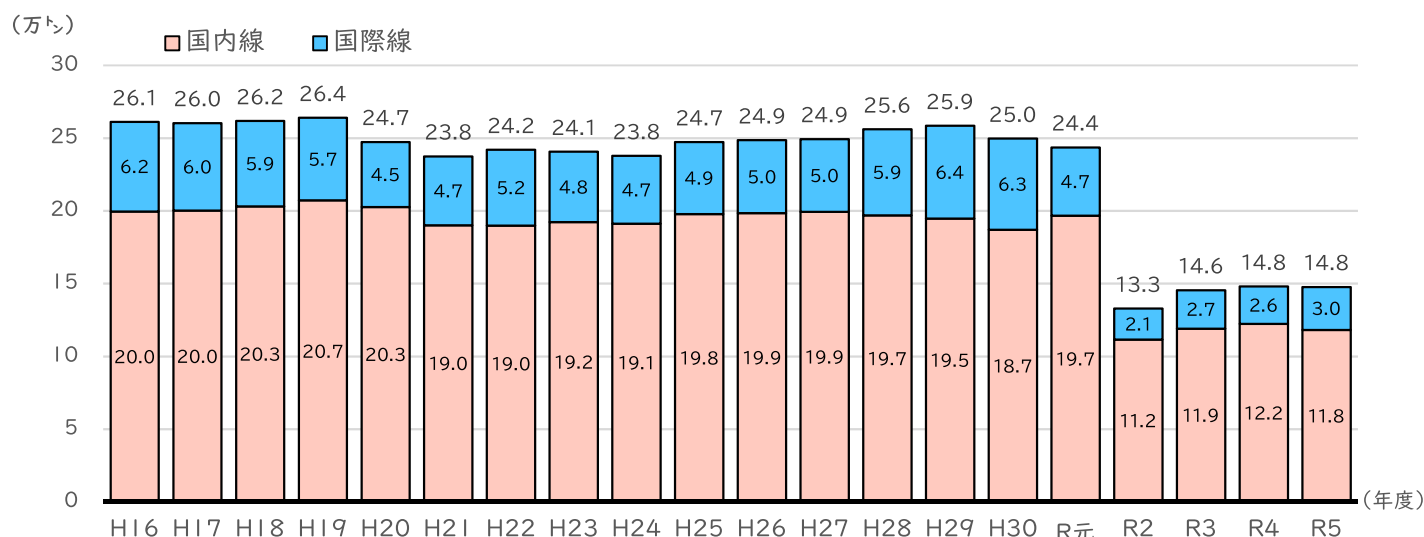
※国土交通省「空港管理状況調書」による (発着回数はヘリを含む)

(4) 乗降客数・貨物取扱量・発着回数の推移

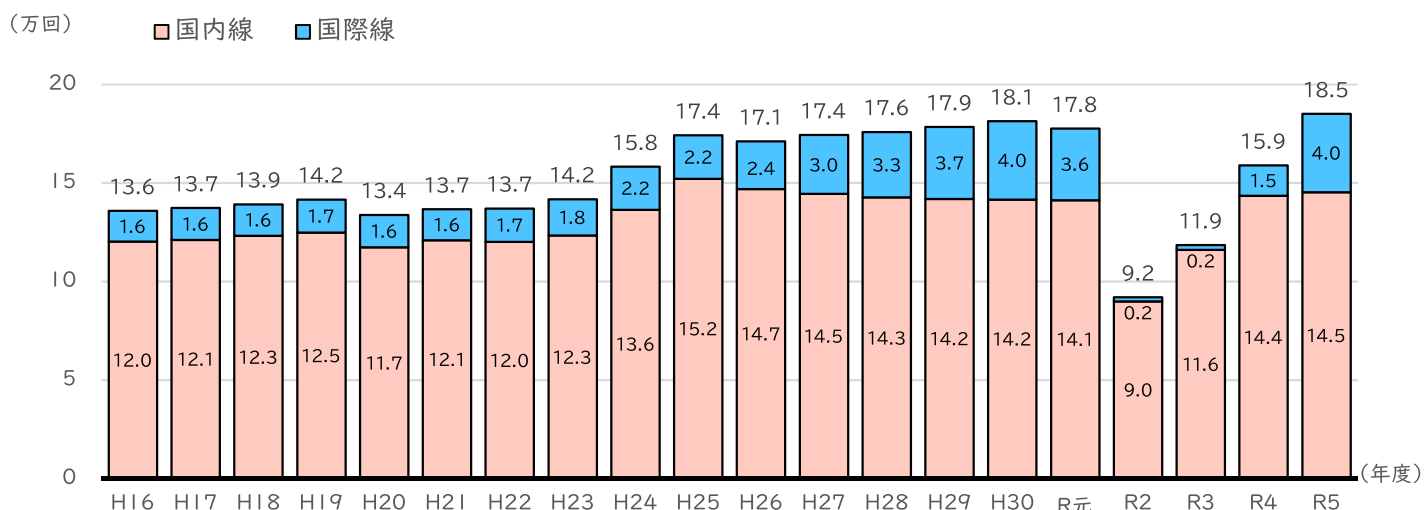
■乗降客数の推移



■貨物取扱量の推移



■発着回数の推移



※国土交通省「空港管理状況調書」による（発着回数はヘリを含む）

※端数処理のため合計が合わない場合がある

【令和5、6年度 同期累計比較】

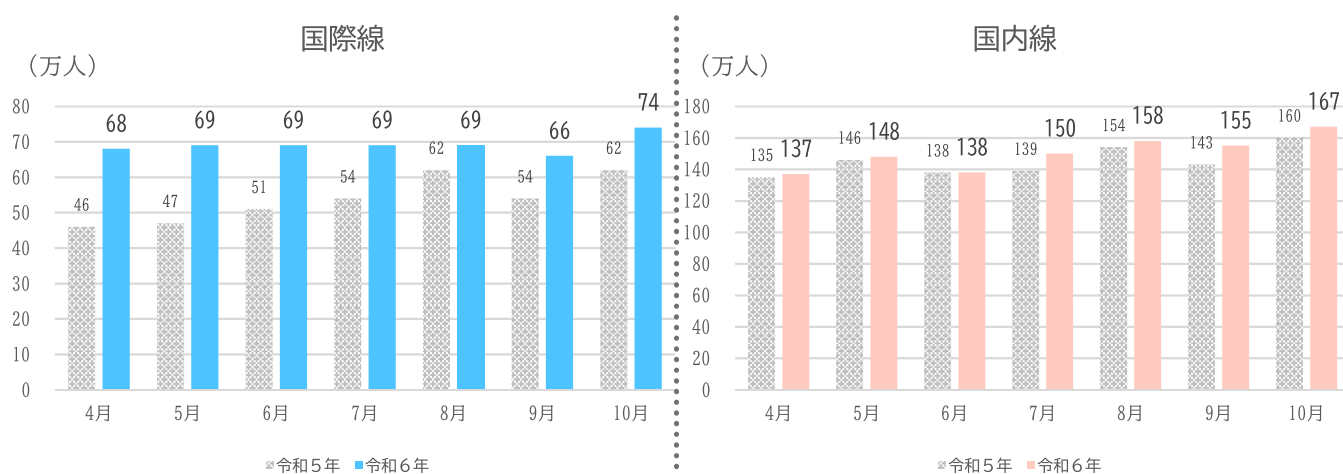
区分		令和5年 4～10月 累計	令和6年 4～10月 累計	対前年比
乗降客数 (万人)	国際線	376	484	128.9%
	国内線	1,016	1,053	103.7%
	計	1,391	1,537	110.5%
貨物取扱量 (トン)	国際線	15,784	18,821	119.2%
	国内線	67,120	68,534	102.1%
	計	82,904	87,355	105.4%

※令和5年は、国土交通省「空港管理状況調書」による

※令和6年は、大阪航空局「管内空港の利用状況概況集計表（速報値）」による

※端数処理のため合計が合わない場合がある

【令和5、6年度 4～10月の月別内訳（乗降客数）】



※令和5年は、国土交通省「空港管理状況調書」による

※令和6年は、大阪航空局「管内空港の利用状況概況集計表（速報値）」による

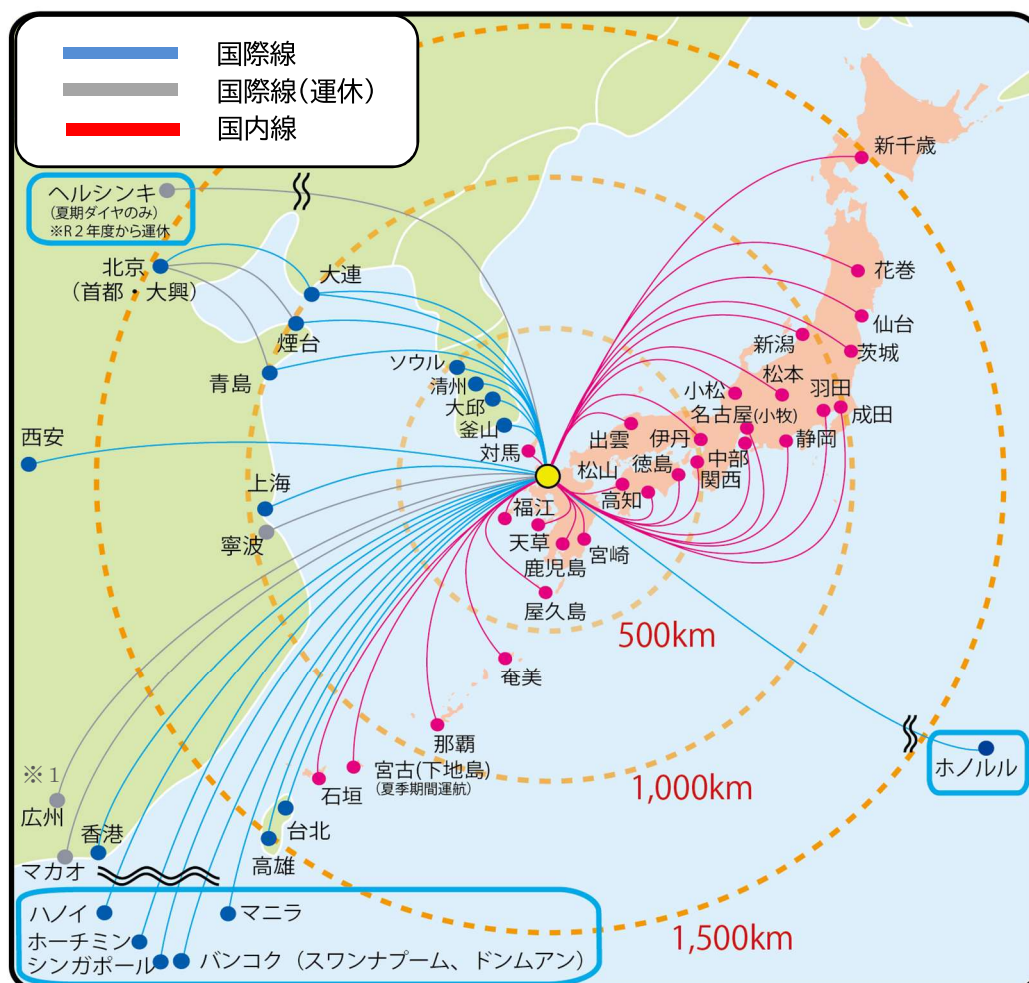
2 福岡空港の就航路線について

(1) 現在の路線数、便数（令和6年12月現在）

福岡空港の時刻表（12月）を基に福岡市港湾空港局で作成

区分	路線数	発着便数	乗入航空会社数	行 先
国際線	23 ※運休含む	858 (便/週)	32	ソウル、釜山、大邱、清州、上海、北京、大連、青島、煙台、<u>広州</u>※1、西安、寧波、香港、マカオ、台北、高雄、マニラ、バンコク、ハノイ、ホーチミン、シンガポール、ホノルル ※下線部は時刻表上「運休」 計22都市（8カ国・地域）
国内線	27	388 (便/日)	13	羽田、成田、新千歳、花巻、仙台、新潟、小松、松本、茨城、静岡、中部、名古屋(小牧)、関西、伊丹、出雲、松山、徳島、高知、対馬、福江、天草、宮崎、鹿児島、屋久島、奄美、那覇、石垣 計27空港

※乗入航空会社については、コードシェアのみの会社を除く



※1 広州線は令和7年1月10日に復便（春秋航空）

(2) 主な路線の新規就航状況（令和5年度以降）

◆ 国際線

就航日		路線	航空会社
令和5年	4月 7日	香港	香港航空
	6月 5日	上海	春秋航空
	7月 15日	寧波	春秋航空
	8月 4日	大連	春秋航空
	11月 26日	清州	ティーウェイ航空
	12月 28日	上海	上海航空
令和6年	9月 20日	広州	春秋航空
	12月 7日	煙台	中国東方航空
	12月 17日	西安	長竜航空
令和7年	1月 20日	上海	上海吉祥航空

◆ 国内線

就航日		路線	航空会社
令和5年	7月 1日	宮古 (下地島)	スカイマーク

※宮古は7月1日～8月31日の期間運航

3 福岡市・福岡国際空港(株)協議会について

福岡市は、空港運営会社との間で、相互の協力と密接かつ持続的な連携により、福岡空港及び地域の活性化を図ることを目的として、パートナーシップ協定を締結し、市独自の協議の場（福岡市・福岡国際空港(株)協議会）を設置している。

（令和6年1月以降分）

開催日・出席者	概 要
令和6年3月18日(幹事会) 【福岡市】 港湾空港局長、理事、 空港振興部長 他 【運営会社】 副社長、 経営企画本部長 他	・市から、市議会における空港関連の主な質疑及び令和6年度予算（案）について説明し意見交換を行った。旅客に比べ回復が遅れている航空貨物の現状と見通しについて、運営会社からは、輸送手段は需要や価格等を踏まえて物流事業者によって選択されており、現在もコロナの影響等を受けている状況ではあるが、旅客便が戻り安定化することで、段階的な回復が期待されるとの説明を受けた。 ・運営会社から、2024年度～2028年度の中期事業計画（案）と2024年度の単年度事業計画（案）の概要について説明があり、旅客数の目標、施設計画、経営の見通し等について共有された。増設滑走路供用以降についても、改めて安全安心で周辺地域に寄り添った空港運営、利用者の利便性向上、航空路線のさらなる充実強化を進めることなどを確認した。 ・運営会社から、国内線保安検査場におけるスマートレーンの導入により、混雑はかなり改善されており、今後、国際線側にも同機器を導入するとの報告があった。また、昨年12月に供用開始した国内線南乗降場の利用が進んできたこと、さらに、令和6年4月に現行の約2倍の収容台数となる国内線新立体駐場が供用開始し、車両混雑緩和が進む見通しとの説明があった。
令和6年5月28日(幹事会) 【福岡市】 港湾空港局長、理事、 空港振興部長 他 【運営会社】 副社長、 経営企画本部長 他	・市から、市議会における空港関連の主な質疑について説明し意見交換を行った。 - また、地域が3月に策定した「まちづくりビジョン」の実現に向けて、市と運営会社が連携して、地域を支援していくことを確認した。 ・運営会社から、2023年度の国際線旅客数及び国際線・国内線旅客数の合計が過去最高を記録したことなどの報告があった。 - また、令和6年4月の国内線新立体駐車場の供用開始や国内線保安検査場におけるスマートレーンの導入等により、混雑はかなり解消され、大型連休中も大きな混雑はなかったとの報告があった。 ・運営会社から、中期事業計画および2023年度決算状況の説明

	を受け、財務状況については、民間委託以降初の営業利益黒字を達成したが、未だ当期純利益は赤字であり、経営安定化に向けた様々な努力の中で利便性向上なども含め検討を進めていくなどの報告があった。 市から、空港運営は地域の理解と協力で成り立っていることを改めて伝え、今後、増設滑走路の供用、国際線ターミナル増築など、環境が大きく変化するが、引き続き安全安心で周辺地域に寄り添った空港運営の継続を申し入れるとともに、連携して利用者の利便性向上や航空路線のさらなる充実強化を進めることを確認した。 ・今後も引き続き両者の連携を図っていくことを確認した。
令和6年8月5日（協議会） 【福岡市】 市長、副市長、 港湾空港局長、理事 他 【運営会社】 社長、副社長、 経営企画本部長 他	・運営会社から、中期事業計画及び運営状況や今後の経営の見通し等について説明を受けた。 福岡市から、空港運営は地域の協力と理解で成り立っていることを改めて伝え、増設滑走路の供用後も安全・安心な空港運営への取り組みの徹底を申し入れた。 あわせて、高付加価値旅行者の受入環境整備について両者で連携しながら取り組んでいくことを確認した。 ・運営会社から、令和7年3月の国際線旅客ターミナルビル増築部供用に合わせ、国際線の旅客取扱施設利用料（PSFC）を改定したいとの意向が本年1月に示されたことを受け、同年3月及び5月に「福岡市・福岡国際空港株式会社協議会 幹事会」を開催し、福岡市から過度な利用者負担にならないことなどを要請していた。 本日の協議会での運営会社からの説明で、国際線旅客ターミナル増改築工事により、旅客の利便性が格段に向上すること、改定予定額が国内主要空港と同程度になっていること、運営会社が今後も福岡空港の更なる利便性向上と地域共生に取り組むことを確認した。

令和6年10月31日(幹事会) 【福岡市】 港湾空港局長、理事、 空港振興部長 他 【運営会社】 副社長、 経営企画部長 他	・福岡空港からの市内要所との直行バスの運行状況について、運営会社は、アクセス利便性向上に向け、バス事業者に適宜要望を行っている。また、バス事業者としては、運転手不足で生活路線の維持を優先せざるを得ない状況にあっても、交通拠点である博多駅との直行バスや、利便性向上のための“国内・国際線連絡バス”への接続バスの導入など、出来る限りの対応をしているとのことであった。 ・運営会社から、2024年度第2四半期決算について報告があり、旅客数の増加等により、営業収益、営業利益は過去最高となり、純利益は初の黒字となったとの説明があった。 市から、今度の3月末には増設滑走路の供用も完了するが、今後も安全・安心で地域に寄り添った空港運営について要請し、運営会社からも、しっかり努めていくとの発言があった。 ・運営会社から、国際線 PSFC 改定に併せたキャンペーンとして福岡県民を対象に、出国する旅客について、福岡空港の施設内で利用できるクーポン等の配布について検討を行っているとの発言があった。 また、地域共生策についても、来年度の空港環境整備助成事業に係る市への助成額を増額するほか、引き続きまちづくりにも取り組んでいくとの発言があった。
---	---